

当院を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	慢性心不全患者のフレイル実態調査
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇学
担当科等	リハビリテーション部
研究責任者	(職名) 教授 (氏名) 尾川貴洋
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	順天堂大学保健医療学部 理学療法学科 教授 高橋哲也
研究の意義・目的	<p>近年、高齢心不全患者さんは増加傾向となっておりますが、なかでも身体的フレイル(虚弱)を伴う割合は65歳以上の患者では約50%にのぼります。フレイルは予後にも影響する重大な要因であり身体機能の改善を目的とした理学療法は極めて重要であります。</p> <p>これまで心不全患者さんのフレイルの割合や身体機能の推移に関する研究報告はいくつかみられるものの単施設で、かつ少数のデータにとどまっていますが、今後は全国規模で大規模なデータを収集し、解析することが必要と考えられます。日本心血管理学療法学会では、下記の3点を当面の目標とし、本研究を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 循環器理学療法を受ける心不全患者さんのフレイル有病率を明らかにすること(2) 入院前の身体機能まで回復しないまま退院する心不全患者さんの割合を明らかにすること(3) 高齢心不全患者さんの予後とその関連因子を調査すること <p>入院期間がますます短縮化される中、十分な身体機能が回復しないまま退院する心不全患者さんの現状を明らかにすることは、その後の連携(回復期病院との連携、在宅との連携)を推進するうえでも重要な資料となります。</p>
対象となる患者さん	倫理委員会承認日から2022年3月までに心不全治療のため入院加療を必要とした心不全患者さんのうち、入院中に理学療法処方があった患者さん。
研究の方法	入院後に診療・治療上の検査・測定や問診によって得られた研究対象者さんの基本情報、医学的情報、理学療法評価、予後・退院先を収集して、データ登録を行います。これらの情報を様々な統計手法を用いて、①循環器理学療法を受ける心不全患者さんのフレイル有病率を明らかにすること②入院前の身体機能まで回復しないまま退院する心不全患者さんの割合を算出し

	て、予後との関連を解析することを行います。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2025年3月31日
研究に用いる試料・情報	情報：年齢、性別等の基本情報、各種検査結果、理学療法の評価等の診療情報
外部への試料・情報の提供	研究参加施設とのデータの受け渡しは紙媒体およびパスワードロック機能付きのUSBを 사용합니다。データの運搬は郵便局の追跡情報が確認できる「レターパック」を用い、研究参加施設とデータセンターでデータの運搬を行います。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年3月31日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 リハビリテーション部 担当者：理学療法士（氏名）山本将大 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 36900）